身ぶりのはたらき

東山安子

第一次指導（概観）一時間扱い

〈区画〉五区画（教科書の区画に合わせて）

二とく（読後感整理の話し合い）

○　題目（題名を手がかりに話の輪郭を確認）
身ぶり（体を動かす）働き（気持ちを伝える）
挿絵（P187）（一つか二つ　→　漫画　吹き出し
あるいは、ロールプレイ）

◎　ひびき（話の響きを感じる）
身ぶりも　→　心を伝える（大切なはたらき）
身ぶりは　→　知らず知らずにいているが、
言葉と補い合いよいコミュニケーションに

○　手引き
各図それぞれの身ぶりを本文から書き出す。
図２には書いてないので意味を書き出す。

六とく（板書をもとに話の山を確認）

○　事実・区分（板書事項を関連付け、区分する）
動きの確認（図１～４）と図５・６（傍線）
「さす（鼻・口）示す（方向）表す（大きさ）」
よく動いているのは（手・指）動きが自由
言葉と合わせると（かわいい、ありがとう）
区分　具体例　２（声）３（言葉）４（心）

◎　山（これから読み進む話の山を押さえる）
補い合う（２・３・４）と筆者の考え（５）

○　余韻　自然と身ぶりが出ているなあ。

〈板書事項〉

身ぶりのはたらき　　気―　つたえる

1　大切なはたらき

2　図１　人さし指でさす　鼻
　　図２　「しずかに。」　口　声×

3　図３　㊥でしめす　方向
　　図４　両手で表す　大きさ　言葉△

4　図５　頭をなでる　「かわいー」
　　図６　頭を下げる　「ありがー」　心

5　おぎない　合って

第二次指導（詳しく読む）二時間扱い

第二次第一時指導

四　かく

1 大切
2 指　これらの身ぶりは、
声×　「言葉を使えない場面で、
　　言葉の代わりをする」
　　というはたらきをしています。

3 手　「言葉で表せない（むずかしい）
　　方向・大きさ・形をしめす」

4 頭　「言葉といっしょになって、
　　気持ちを深くつたえる」

5 おぎなー

第二次第二時指導

四　かく

2 耳→目　3 一目で　4 心

さいごに考えた（身ぶりの）
はたらきは、特に大切です。
①「身ぶりと言葉のつたえる
気持ちが同じであると、
②相手は安心してこちらの
気持ちを受け取ることが
できる。③それがおたがいの
しんらい感につながる。」と、
わたしは考えています。

二次第一時指導

二とく（本時の指導の足場を作る話し合い）

○　**おさらい**（前時の六とくを再構成して）

身ぶりの働き 三つ（２声　３言葉　４心）

２（クレーン車）３（２０ｃｍ）４（跳ねる）

◎　**承接**（本時の指導へつなぐ）

一生懸命に伝える（言葉＝調子　身＝大）

伝わった時の気持ち＝満足

１身ぶりの大切さ　５補い合い深く伝わる。

○　**手引き**

２・３・４の身ぶりのはたらきを書き出す。

六とく（板書をもとに話の核心を味わう）

○　**語義・区分**（難語句の解消後に区分する）

・　場面　代わり　表せない（難い）

いっしょになって　深く

・　「　」内を二区分　場合と働き

◎　**心**（話の核心を味わう）

言葉が使えない → 代わり（耳 → 目）

言葉では難しい → 形を示す（視覚化）

一緒に合わせる → より深く（正・鮮）

補い合う → 代わり・示す・深く伝わる

例（２ ジェスチャーで　３ 図解の発展にも

４ 自然な気持ちの表れを考える）

○　**余韻**　伝えたい気持ちが自然と体も出るね。

第二次第二時指導

二とく（本時の指導の足場を作る話し合い）

○　**おさらい**（前時の六とくを再構成して）

耳より目で伝える → 身ぶり（複雑 ×）

百聞は一見にしかず → 全体・具体（一目で）

◎　**承接**（本時の指導へつなぐ）

考え・気持ち（心）→ はっきり伝える方法

言葉と身ぶりを一緒にさせる

○　**手引き**

東山さんの考え方が書いてある段落全文視写。

六とく（板書をもとに話の核心を味わう）

○　**語義・区分**（難語句の解消後に区分する）

・　特に大切　同じであると　相手　こちら

それが　おたがい　しんらい感

・　二区分（二文）

後ろの文に「　」を入れ、三文に分ける。

◎　**心**（話の核心を味わう）

特に大切と東山さんが考えたのは。（信頼感）③

（コミュニケーションの大事な柱）心の絆

信頼感はどこから生まれるか。（安心）　②

安心が生まれる条件は。　①

（言葉と身ぶりから伝わる気持ちが同じ時）

心が現れやすいのは言葉と態度のどっちかな。

（結論は宿題です。期限のない宿題です）

○　**余韻**　身ぶりは外国の人にも通じるのかな？

メモ